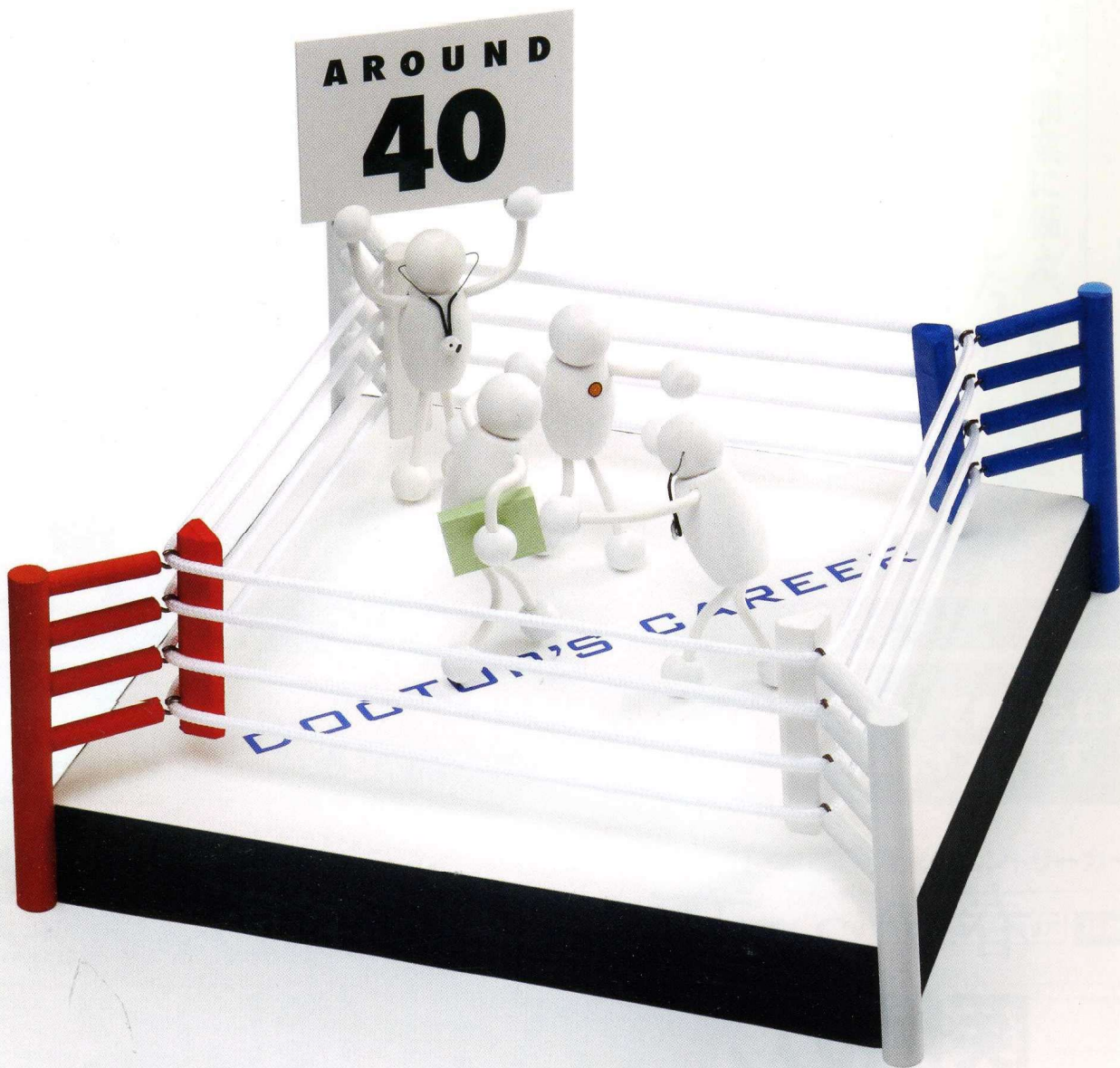


ドクターの「なりたい!」を支えます

ジャミック ジャーナル  
APRIL  
2009  
VOL.29 NO.4  
www.recruit-dc.co.jp

4

# JAMMICK JOURNAL



〈読者座談会〉「患者とのコミュニケーション」

〈広告特集〉これからのクリニック経営&診療に必要なIT特集

特集

AROUND40  
のための

# キャリア形成

スポーツドクター

幅広い人脈形成と、  
毎年の具体的な指針が重要

湯澤 斎氏 医療法人社団俊和会寺田病院整形外科



AROUND40

ト活動を続けているうちに、次第に顔と名前が知られ、みなさんから声をかけてもらえるようになりました。10年目に、ある団体から海外の試合への随行を頼まれたときには、やっと一人前のスポーツドクターとして認められた喜びで胸がいっぱいになりました」

持ち前の情熱とひたむきさで道を切り開いた湯澤氏。夢を実現するために、幅広い人脈づくりと、目標に向かっていま自分は何をなすべきか、具体的な指針を毎年立てていくことの重要性を力説する。

そんな湯澤氏の今後のキャリア展望についてうかがうと――。

「スポーツドクターには、整形外科医としての知識だけでなく、脳神経外科や眼科、歯科など幅広い知識が必要とされます。私自身、常に成長していかなければならないのは当然ですが、こ

の貴重な経験を、臨床スポーツ学会を通じて世界に発表していくとともに、初期研修の必修科目にも匹敵するナマの研修現場として、積極的に後進を受け入れていける体制づくりを整えていく必要があると思っています。

また、豊富な人脈を生かした引退後のアスリートたちのセカンドキャリアづくりへの貢献や、さらに、未来のスポーツ界を担う子どもたちへの医療サポートも積極的に行っていきたいです。子どものころに医療的な側面から正しい体の使い方を伝えていくこと。これが彼ら自身にとっても、日本のスポーツ界にとっても、絶対にプラスになると思っています」

ゆざわ・いつき ●1969年生まれの40歳。94年に埼玉医科大学を卒業後、東京警察病院を経て、04年から医療法人社団俊和会寺田病院整形外科に勤務。一方で、格闘技やサーフィンをはじめ、さまざまな競技のスポーツドクターとして第一線で活躍。とりわけK-1では、世界で2人しかいないオフィシャルドクターを務める。

「もともとスポーツが好きで長年やってきたのですが、大学時代に自分はプロの選手にはなれないことを悟りました。それでもせめて一流のアスリートたちと同じ空気を吸っていたい思いから、もう一つの希望だった医師との両立ができる道をめざして、この世界に飛び込んだのです」

診察室より太陽の下にいるのが似合いないような湯澤斎氏は、1969年生まれの40歳。94年に埼玉医科大学を卒業後、東京警察病院を経て、04年から医

療法人社団俊和会寺田病院整形外科に勤務（常勤）。その一方で、格闘技やサーフィンをはじめ、さまざまな競技のスポーツドクターとして第一線で活躍する。とりわけK-1では、世界で2人しかいないオフィシャルドクターを務めている。

「最初は、警察病院の先輩にお願いしてK-1を紹介していただき、ナースの立場で2年ほどボランティアをしていました。その後、休日返上でキックボクシングの大会などを回ってサポー

！  
次号特集  
予告

リーダーシップを  
考える



医師個人にも自分でキャリアアデザインすることが求められているように、病院という組織にもマネジメントやリーダーシップが必要とされています。

5月号では、現場のリーダーとして考えておきたいことを取り上げていきます。